初の巨大複合災害

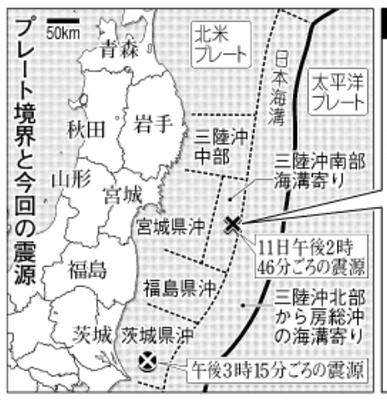
国内史上最大級

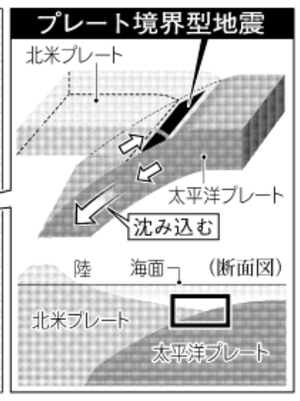
家屋倒壊、火災 広範囲に

国内観測史上最大級となるマグニチュード（M）8・8を記録した東北・関東大地震。大規模な津波、土砂崩れ、建物倒壊、火災…。震源から離れた遠隔地でもゆっくり大きな揺れが続く「長周期地震動」による工場火災やエレベーター停止、大量の帰宅難民発生も加わり、被害は極めて広範囲に及んだ。東海地震や南海地震など「プレート境界型地震」で想定はされていたが、現代日本社会は初めて「巨大複合型災害」に直面した。

地震発生から約30分。釜石市の三陸沿岸部を約4㍍の津波が襲った。午後4時前には仙台市の仙台新港で約10㍍の大津波を観測。がれきを巻き込み、河口から逆流した黒い海水が一気に住宅街をのみ込み、多くの車両を押し流した。慌てて乗り込んだ軽トラックを急発進させる人も。専門家は「津波の高さ、被害域の広さともに国内最大級」と指摘した。

うずを巻く茨城県大洗港付近の海＝11日午後5時54分、共同通信社ヘリから





長時間

震源から遠く離れた首都圏。突き上げるような縦揺れが徐々に強まった後、激しい横揺れが長時間続く。繰り返し大きな余震が起きるたびに高層ビルはぎしぎしと音をたてて きしみ、中の人々は船酔いのような感覚に襲われた。千葉県市原市の製油所では黒煙が周辺を覆う激しい火災が発生、重傷者も。

気象庁によると、断層は長さ400㌔、幅200㌔に及ぶとみられる。

「想定される東海・東南海・南海の三つの地震が連動した規模より大きい。昨年2月のチリ大地震に匹敵する」と名古屋大の田所敬一准教授。

政府地震調査委員会の阿部勝征委員長によると、「典型的なプレート境界地震」。地球の表面を覆う岩板の一部の太平洋プレートが、陸側の北米プレートの下に潜り込む場所で起きた。

京都大防災研究所の大志万直人教授は「太平洋プレートに引きずられて下に潜っていた陸側のプレートが壊れ、元に戻る際に地震が起きた」と話す。

太平洋プレートが潜り込む場所は、北海道から関東までの太平洋側に広がり、どこでも起きる可能性がある。過去にも十勝沖地震（2003年）や宮城県沖地震（1978年）が発生している。

気象庁によると、地震を起こしたのは、やや南寄りの東向きと北寄りの西向きに押し合う「逆断層型」の動き。阿部委員長は「福島県や茨城県でも震度6強を記録しており、断層の破壊が南へ進行したとみられる」と指摘する。

前触れ

東北地方では9日にも大きな地震があった。東北大の大竹政和名誉教授は「今回の前触れだったのではないか」とみる。

東海大のアイダン・オメール教授は「地殻は連続しているので、ある所でひずみが解放されると、別のところにひずみが集中することがある」と指摘。その上で「ニュージーランド地震も、昨年の地震で別の場所にひずみが集中し、2月に解放されたと考えられる。今回の地震も近いことが起きた可能性は十分ある」と話す。

「日本が経験したことのないような地震。最善の努力を」。大畠章宏国土交通相は国交省災害対策本部の会合で指示した。画面には現場からのヘリ映像が映し出された。

内閣府防災担当では、発生直後に約20人の職員が官邸に緊急参集。ある職員は「津波による被害の拡大が心配される。被災範囲もかなり広く、今後の対策も長丁場になりそうだ」と語った。

「大変に大きな地震被害で、どこでどうなっているのか全貌が分からない」。片山善博総務相は青森、岩手、宮城、福島、茨城の各県知事と個別に電話で情報交換した後、記者団に被災地の状況を説明。

「県と連絡が取れない市町村もあるようだ」と厳しい表情を見せた。

京都大防災研究所巨大災害研究センターの牧紀男准教授は「経済面や生活面で首都圏、日本全体への影響が出てくる可能性もある。大都市型の地震災害といえる。人的被害がどれぐらい出ているのか心配だ」と話した。

余震1カ月M7級も

原因断層、長さ数百キロか

津波10メートルか

盛岡気象台 備え呼び掛け

気象庁会見

東北・関東大地震について気象庁は11日、三陸沖を震源とした地震のマグニチュード（M）は国内観測史上最大級の8・8と明らかにした。横山博文地震津波監視課長は記者会見で「余震もM7を超え、震度6弱程度、津波が警戒されるような地震が起こる可能性があり、1カ月程度は注意が必要」と述べた。

さらに「破壊された断層の長さは、東北沖から関東沖までの数百㌔に及ぶ可能性がある」との見解を示した。

同庁によると、今回の地震のメカニズムは、プレート（岩板）境界で起きた逆断層型。東北で震度5弱となった9日のM7・3地震と同様のメカニズムとみられる。9日の地震が前震（前兆的な地震）で、今回が本震の可能性もあるという。

ただM7級の地震直後に大きな地震が発生する例はあまりなく、「特異な事例かもしれない」と指摘した。

さらに「津波は第2波、第3波の方が高くなることがある。津波はそのまま避難所にいてほしい」と呼び掛けた。

本県沿岸を襲った津波については「最大10㍍を観測できる宮古の検潮所や、宮古、大船渡から今はデータが来ていない」と述べ、津波や地震で観測機器や通信回線が破壊されたか、津波が観測範囲を超えたかなどの可能性を示唆した。

地震については「さん定値でマグニチュード（M）8・8と推定している」と述べた。予想されていた宮城県沖地震との関係については「詳しい分析をしてみないと分からない」とした。

同気象台の藤原正志地震津波防災官と大山耕司防災業務課長が会見。「最大10㍍の津波の危険があるほか、余震も発生するので避難している人たちは引き続き津波と、最大で震度6程度の余震への備えを訴えた。

盛岡地方気象台は11日午後5時20分から記者会見し、「数百㌔にわたり、岩盤が動いたと推定している」と地震の大きさを示し、引き続き津波と、最大で震度6程度の余震への備えを訴えた。

同気象台の藤原正志地震津波防災官と大山耕司防災業務課長が会見。「最大10㍍の津波の危険があるほか、余震も発生するので避難している人たちはそのまま避難所にいてほしい」と呼び掛けた。

本県沿岸を襲った津波については「最大10㍍を観測できる宮古の検潮所や、宮古、大船渡から今はデータが来ていない」と述べ、津波や地震で観測機器や通信回線が破壊されたか、津波が観測範囲を超えたかなどの可能性を示唆した。

地震については「さん定値でマグニチュード（M）8・8と推定している」と述べた。予想されていた宮城県沖地震との関係については「詳しい分析をしてみないと分からない」とした。

同気象台や気象庁の発表では、11日午後3時55分現在、観測された県内の津波の最大波は同日午後3時21分、釜石の検潮所で観測した4・1㍍以上、沖合のGPS波浪計では同日午後3時12分に釜石沖で記録した6・8㍍だった。

各国が支援表明

東北・関東大地震で各地が津波や家屋倒壊の被害に見舞われた日本に対し、各国は11日、救助隊派遣など支援の用意があると相次いで表明した。一方、太平洋岸のチリ政府は、津波が到達する恐れがあるとして津波警報を発令し、災害防止に備えた。

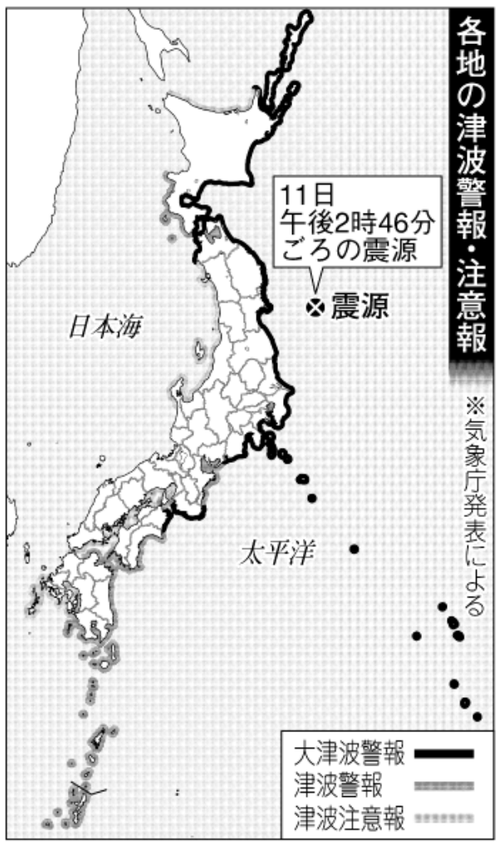
インタファクス通信によると、ロシアのメドベージェフ大統領は「日本で極めて大きな地震が起き、死者も出ているようだ。われわれは当然、隣国を支援する用意がある」と表明。ショイグ非常事態相に具体的支援策を提出するよう指示した。

韓国外交通商省報道官は声明で「人命被害と膨大な損害が起きた」とし、「非常に深い哀悼の意」を表明。日本政府の受け入れ表明を待って、消防の救助隊員を派遣する方針を明らかにした。救助隊員約40人が待機しているという。

新華社電によると、中国赤十字会の災害救援隊も派遣の用意があると表明。同隊には2008年5月の四川大地震で救援活動に携わった専門的なボランティアもいる。

各地の主な津波一覧

【約10㍍】
宮城・仙台
【7.3㍍以上】
福島・相馬（午後3時50分）
【4.2㍍】
茨城・大洗（午後4時52分）
【4.1㍍以上】
岩手・釜石（午後3時21分）
【4㍍以上】
岩手・宮古（午後3時21分）
【3.5㍍】
北海道・えりも町庶野（午後3時44分）
【3.3㍍以上】
宮城・石巻市鮎川（午後3時20分）
【3.2㍍以上】
岩手・大船渡（午後3時15分）



地震発生からのドキュメント

（県警などまとめ）

14：46　地震発生
15：16　釜石湾で防波堤を波が乗り越え押し寄せている状況
：16　大船渡港で防波堤を波が乗り越え押し寄せている
：18　県警巡視船から「約2㍍の高波が平田漁港に押し寄せている」
：20　宮古湾で4～5㍍の高波
：21　釜石で津波による冠水。「駐車場の車が流されている」
：21　釜石港に車20台が浮いている。4㍍の高波が押し寄せている
：22　山田町・船越湾で住宅が押し流されている
：24　「宮古署前の海水が防波堤を越え始めている」
：29　「釜石で相当数の家屋が崩壊」
：29　10㍍以上の津波。岩泉署平井賀駐在所付近まで押し寄せた
：30　県警ヘリ「陸前高田市は市街地の半分が波にのまれている」
：32　岩泉署平井賀駐在所が流される
：32　岩泉・小本でも水門を乗り越えて波が押し寄せている
：33　県警ヘリ「陸前高田市の市街地は波にのまれほぼ確認できない」
：34　久慈地区の堤防を乗り越え津波が到達。沖合で5㍍程度の波を確認
：36　大船渡署から「ＪＲ大船渡線を乗り越え地区水没」
：36　山田町役場まで波が押し寄せ、町内は全域水没。住民は屋根の上で救助待ち。木造住宅は波に流されている。
：38　県警ヘリ「大船渡署付近、赤崎地区水没」
：41　洋野・種市町海浜公園付近水没
：45　山田町内で3、4カ所火災発生。消火作業ができない
：45　久慈署から「旧国道45号水没」
：48　宮古の津軽石川が逆流している
：53　宮古署から「防波堤を破壊し波が乗り越えている。津軽石漁港付近水没し始めている」
：58　大槌・吉里吉里の給食センターまで水没。地区内家屋が倒壊
16：05　野田村の久慈署野田駐在所付近水没。火災も発生
：06　山田町で第2波が到達。堤防は破壊。
：08　久慈署管内で車2台が流され、乗車していた男性1人死亡を確認
：11　宮古署近くで第3波到達。第1、2波より小さい
：14　大船渡署東側の国道45号はほぼ水没
：17　宮古署から「漁港付近で2人が屋根の上で漂流」
：21　「田野畑方面で黒煙が立ちこめている」「4人流されているとの情報も」
：22　釜石・浜町で倒壊しそうな家屋の屋根の上で相当数が救助を求めている
：26　山田町・大沢地区のパチンコ店から南側は家屋がほぼ壊滅状態。通行不可。遺体も数体確認できる
：27　大船渡・末崎・細浦地区はほぼ壊滅。越喜来地区など300棟倒壊
：29　岩泉・小本商店街で住宅が崩れ始めている。人は確認できない
：31　岩泉署「三陸鉄道北リアス線の線路が崩壊」
：32　久慈の「石油備蓄基地屋外タンク全壊」
：34　釜石で道路通行止めの区間
：38　陸前高田市・気仙地区の会社で6人が救助求める、が車近づけず
：39　大船渡・赤崎地区はほぼ壊滅。赤崎小に250人避難
：42　赤崎地区の野球場付近で流されている男女2人
：49　釜石市の被災世帯8千世帯
：51　大船渡駅前ほぼ壊滅。津波第2波は「マイヤ」3階付近まで到達
：54　久慈・侍浜で乗用車2台が流され1人不明、1人けが
：57　大槌・吉里吉里地区で1人死亡確認
：58　岩泉町の大牛内分校に100人避難。行方不明者は確認できない
17：04　大船渡署「消防で遺体5人確認」
：13　大船渡市役所北方に火災を目視確認
：16　県立山田病院の1階冠水
：17　宮古署「ＪＲ鉄橋が流されている」
：18　宮古署「老人施設が津波に巻き込まれ、従業員、入所者が近くの高台に避難。不明者多数」

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。